

## 第4回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2010年3月14日（日） 午前11時～12時

場 所：中原市民館 2階 視聴覚室

出席者：〔委員〕小倉、庄司、岩森、瀧田、末吉

〔川崎市〕地球環境推進室

〔事務局〕NPO 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク

### 1. 開会

委員長から開会のあいさつ。

### 2. 配布資料確認

事務局から配布資料の確認を行った。ビジネス・コンパクト審査集計表について末吉委員からの点を加点し、手元の資料を修正した。

### 3. ビジネス・コンパクト新規企業審査について（資料1）

事務局から株式会社近藤工芸（参加単位：照明事業部）の申請について、各委員の審査表の集計結果が報告された。評点の合計は58点で、平均点（45点：全項目3点）以上となりビジネス・コンパクトのパートナー企業として登録することを承認した。

### 4. ビジネス・コンパクト継続企業について（資料2）

事務局から資料に従って、継続企業の確認を行った。旭化成ケミカルズについて、現在継続確認中であり、それ以外の継続対象企業はすべて継続であることを確認した。

### 5. かわさきコンパクトフォーラムの進行役割について（資料3）

事務局から資料に従って、本日のフォーラムの進行を確認した。

### 6. 来期の取り組みに向けて（資料4）

川崎市より、今後の取組について資料4に沿って説明があった。特に川崎市地球温暖化対策推進条例の指針のなかに、かわさきコンパクトへの参加が盛り込まれ、事業所に対してビジネス・コンパクト参加アピールがよりしやすくなったことの報告があった。

今年度の事業を振り返りながら、来年度事業への意見交換を行った。

(参加企業、団体の拡充について)

- 今までアプローチしていなかった企業や、特にグローバルコンパクトに加入している企業にはアプローチしていきたい。
- (株)カワデンは、高津市役所に設置する太陽光エネルギー施設の工事を行う予定である。そういった、CO2 削減の取組に対して、「かわさきコンパクト参加企業」といった言葉を入れられるといい。

(イベントの参加の感想について)

- 2009 インターナショナル・フェスティバル in カワサキは、時期的に展示用のツール（パネルなど）の準備が不十分であったのと、フェア参加対象者がこちらの狙いとは多少異なっていた。
- かわさきボランティア・市民活動フェアは、市民活動団体に対して効果的なアピールの場となった。
- 川崎国際環境技術展 2010 は、企業の買い付け担当や営業が集まってくるところだが、そのような参加者に対して川崎市の「持続可能な都市づくり」の政策メッセージを発信しているところに意義がある。従って、もっとメッセージをわかりやすくした展示を行うことがいいという感触。また、参加企業にとっては、かわさきコンパクトを一般にアピールしていることが実感できる場としての効果も大きい。
- 各種のイベントに参加することは、一般市民や事業者への認知を広げる、川崎市の施策を発信する場として有効と考える。
- 川崎国際環境技術展 2010 であるが、市ではかわさきコンパクトの他各種の取組を行っているが、そのアピールが個々の発信となってしまう、関係性がわかりにくく、市としてのメッセージが伝わりにくいものになってしまったことを反省している。展示などでは、流れで見えるようなかたちにすれば、メッセージ性が強くなる。
- 各種イベントや展示などで、ロゴをもっと活用していきたい。シールやラミネートで作れば使い回しができていい。
- かわさきボランティア・市民活動フェアの時も、市民コンパクト参加団体の展示物にロゴマークを付けてもらえるといい。

(セミナーについて)

- 秋のセミナーは、市民向け、企業向けと連続にしたことで、企業が市民セミナーに来たり、市民活動団体がビジネスセミナーにきたりして交互の交流が生まれた。
- 市民セミナーは、即戦力になりとてもよい勉強になった。
- 特に秋のセミナー講師は、市内の団体のホームページを事例にして話してくださったので、話題が身近であり効果があった。今後も講師をお願いする時には、川崎の題材を取り入れてもらおうと、より効果的な内容になるし、受ける方は身近な問題としてとらえられ実際の活動につながりやすい。
- ビジネスセミナーに対する企業の反応だが、実際にメリットとなる ISO の冊子は有効だ

った。

- 旬のテーマは、全体像が見えにくいので、そこを噛み砕いて解説してもらうことで自分に引き寄せられてわかりやすくなり、ためになったという実感が持てる。今年の10月には、ISO26000が発効されると言われているので、それに合わせてやるのがいい。

(参加のメリットや実感について)

- 市民活動団体と企業との交流を推し進めるために、地域課題や本音を話し合う、地道な意見交換会を早めに設定したい。できれば一回目の委員会の前に意見交換会を行って、意見を吸収することが必要である。

- 参加者として関わっていた活動団体や企業に呼びかけ、今度はいわさきコンパクトをいっしょに創っていく仲間として意見を出してもらうために年度初めにやるのがいい。

- 自分たちの思いや意見を聞き合う場が必要である。委員会で決まるのではなく聴きながら進めていきたい。

- 委員会を公開し、委員、団体、企業の意見交換会にしたい。

- 実績を積むことが大事である。来年度は協働の事例を作りたい。

- 21年度は互いの交流が生まれた。22年度は同じテーブルで話し合うところから始めたい。

意見交換後、以下のことを決定した。

- ① より実感、実効の持てる事業とするため、来年度4月に、企業・市民・行政のラウンドテーブルを設け、意見交換を行い、それを基にして年度冒頭の委員会資料とする。

- ② 市民コンパクトは団体参加とし、その審査方法は第一回委員会で提案する。

- ③ かわさきコンパクト参加への求心力を高めるために5月下旬～6月初旬にキックオフイベントを行う。

7 その他

8 閉会